NEWS RELEASE

立命館大学

2022. 2. 21

報道関係者　各位　　＜配信枚数2枚＞

社会システム研究所主催シンポジウム
「パンデミックで見えてくる社会と〈私〉」開催
日　　時：2022 年 3 月 10 日（木）13：00～16：00
開催方法：オンライン（Zoom ウェビナー）

立命館大学社会システム研究所は、3 月 10 日（木）、「パンデミックで見えてくる社会と〈私〉」と題したシンポジウムをオンラインで開催いたします。

コロナ禍でさまざまな社会問題が直接的・間接的に顕在化しました。とりわけ社会的に不利な立場にある方々を取り巻く諸問題への対応は、喫緊の課題と考えられます。

本シンポジウムでは、滋賀県野洲市役所で消費者行政や生活困窮者支援事業を担当されている生水裕美氏をはじめ、実践者として地域で活動を継続されている方々をお招きし、望ましい社会のあり方と社会を構成する存在である〈私〉との関係について考え、分かち合う場とします。あわせて「何が『社会的弱者』であるのか」という問いについても思索します。

記

日　　時	：	**2022 年 3 月 10 日（木）13:00～16:00**
開 催 方 法	：	**オンライン（Zoom ウェビナー）**
参　加　費	：	無料（事前申込制）
申 込 方 法	：	https://bit.ly/3royobK からお申し込みください。
主　　催	：	立命館大学社会システム研究所
後　　援	：	立命館大学経済学会

※詳細は別紙をご覧ください。

以上

本リリースの配布先 ： 京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ

●取材・内容についてのお問い合わせ先
立命館大学 BKC リサーチオフィス　担当：三木・山脇
TEL.077-561-3945

別 紙

【プログラム】 ※敬称略

13:00～13:05　開会挨拶　金丸 裕一（社会システム研究所 所長／経済学部 教授）

13:05～13:35　第一部　問題提起

発題 1「コロナ禍における生活困窮者支援」

生水 裕美（野洲市役所 市民部 次長）

13:40～14:10　発題 2「パンデミックが映し出す『脱グローバリズム』地域社会構築の重要性」

神田 浩史（特定非営利活動法人 泉京・垂井 副代表理事）

14:15～14:35　発題 3「大正時代に猛威を奮った感染症に関する研究－スペイン風邪を事例に－」

今川恵人、植田夏帆、勝又大希（経済学部 細谷ゼミ 4 回生）

14:40～15:10　発題 4「農村医療から世界を診る 良いケアのために」

色平 哲郎（JA 長野厚生連・佐久総合病院 地域医療部 医長）

15:25～15:55　第二部　全体討論・意見交流

15:55～16:00　閉会挨拶　河音 琢郎（経済学部 学部長・教授）

※プログラム内容は変更になる場合がございます。

【登壇者プロフィール】

■生水裕美

1999 年 4 月野洲町（2004 年合併により野洲市）の消費生活相談員として入職、2008 年 10 月野洲市職員採用試験を受け正規職員となる。消費者行政や生活困窮者支援事業を担当。国の社会保障審議会臨時委員等を歴任する。一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク理事、一般社団法人つながる社会保障サポートセンター理事、特定非営利活動法人しが生活支援者ネット理事。著書に「生活再建型滞納整理の実務」（ぎょうせい）。

■神田浩史

京都市生まれ。大学を卒業後、開発コンサルタント企業に勤務し、タンザニア、ナイジェリア、バングラデシュなどで ODA の農業開発事業に従事。企業を退職後、主に東南アジア各地の地域づくりの現場を調査研究し、日本政府の国際協力・ODA 政策策定に関わる。現在は、全国各地で地域づくり、環境・水・川、NPO・NGO などに関する講演を行うかたわら、流域単位の循環型社会の再構築を図る社会を「穏豊」社会と銘打ち、揖斐川流域での穏豊社会の実現に向けて地域づくりに関わっている。岐阜県不破郡垂井町在住。

■色平哲郎

横浜市生まれ、東京大学中退後、世界を放浪し、医師を目指し京都大学医学部へ入学。90 年同大学卒業後長野県厚生連佐久総合病院、京都大学付属病院などを経て長野県南佐久郡南牧（みなみまき）村野辺山へき地診療所長。98 年より南相木村の診療所長、08 年佐久総合病院地域医療部へ。外国人HIV感染者・発症者への「医職住」の生活支援、帰国支援を行う NPO 法人「アイザック」の事務局長としても活動。同法人は 1995 年タイ政府より表彰を受ける。東京大学大学院医学研究科非常勤講師。